

# 外国語教育・貧困撲滅・国際交流のための世界一合理的な文字

——世界共通文字の開発（第 35 版）——

Development of Universal Alphabet for Literacy,  
Yoshinori Hayakawa, Toin University of Yokohama

早川吉則

桐蔭横浜大学 臨床工学科（ユネスコ・アジア文化センター維持会員）

（2006 年 3 月 3 日 受理）

世界共通文字は世界一合理的な文字といわれるハングル（西暦 1443 年に李朝朝鮮の名君世宗大王が庶民の識字のために開発させた文字<sup>(1)</sup>で当時の音声学の知識を取り入れた文字）の作字法や仮名の濁点をヒントにして現代の音声学の集大成である国際音声記号<sup>(2)</sup>の形を合理化し、簡単な規則により発音方法と文字の形が対応するようにしたものである<sup>(3-7)</sup>。このため短期間で読み書きが出来るようになり世界中の言語の発音をほぼ忠実に表記できるので、新しい国際音声記号として外国語の辞書に使うこともでき、世界で共通に使うこともできる。このため算盤数字とともに<sup>(9-13)</sup>初等教育の普及＝識字に役立つので貧困・無知からの解放と、この結果としての、エイズ・結核・マラリア等の感染症の蔓延防止、人口爆発の防止に役立つ<sup>(14-17)</sup>。また算盤数字から発展した国際数詞<sup>(13)</sup>とともに国際交流・国際理解にも役立つ。また科学技術の発展につれて学習しなければならないことが増える。このため読み書き計算といった初等教育を効率化し、科学技術の最先端の研究に速く到達することが重要になると思われる。また現在のものよりも合理的な新しい国際音声記号として語学学習に役立つ。また絶滅に瀕した少数話者の言語に文字を提供する。

**キーワード：**識字、国際音声記号、ハングル、濁点、語学学習、教育効率化

## 〔母音〕

母音は発音の時に唇が丸くなる円唇母音と唇が平たい非円唇母音に分けられる。またこれらの母音は発音の際の唇の開き方や、発音の際に舌の高いところの位置が前方にあるか、後方にあるかによって表 1 の様に分類されている。国際音声記号の母音の形はアルファベット（ラテン文字）を基礎としてはいるがでたらめな形をしている。世界共通文字の母音は基礎となる母音の文字の形を合体させて中間の母音の文字を作るというハングルの作字法を使用し、また円唇母音は横棒の一部を円にし、一目で非円唇母音と区別できるようにした（表 2）。

表1 国際音声記号の母音：[国際音声記号ガイドブック、国際音声学会  
(竹林・神山訳)、大修館書店、2003年]より許可を得て掲載（一部変更）

前舌（舌の高いところ）奥舌	舌	前舌（舌の高いところ）奥舌
i I      ɨ      ɯ	狭	y Y      ɥ
e      ɛ	半狭	ø      œ
æ	半開	ə      ɜ
a	開	ɔ      ɒ
□ 非円唇母音	唇	○ 円唇母音

表2 世界共通文字の母音

前舌（舌の高いところ）奥舌	舌	前舌（舌の高いところ）奥舌
ɾ      ɸ      ɹ      ɻ	狭	p      ɸ      ɾ      ɹ
ɸ      ɹ	半狭	b      ɸ      ɸ      ɸ
ɸ      ɸ	半開	ɸ      ɸ
ɸ      ɸ	開	ɸ      ɸ
□ 非円唇母音	唇	○ 円唇母音

基本的な母音の字は非円唇母音の四すみにある母音で角の形をかたどった「(イヌのイ)、ɸ (ウソのウ)、ɹ (パンのa)、ɻ (タツのa)である。すべての非円唇母音は近くにある基本的な母音の字を合体させた形（例えばɸ (エ)は ɻ とɾの合体した形。またɸはɸとɸが合体した形、非円唇母音の中央にあるɸは「ɸ ɸ ɸ ɸ」の合体した形「国際音声記号ではə」）で表される。円唇母音の字は対応する非円唇母音の文字の横棒の一部を円で置き換えた文字で表される。

例えば日本語の「ウ」は非円唇母音で国際音声記号ではɯである。この口の開き具合、舌の高いところの位置が対応する円唇母音はuである。世界共通文字ではこれらはそれぞれɸ及びɹで表される。また鼻からも息を出す鼻母音（例えば国際音声記号ではẽ）は世界共通文字では国際音声記号eに対応する世界共通文字ɸの右肩に鼻の穴をかたどる丸をつけた ɸ° で表記される。母音は文を読みやすくするため丈を子音より小さくし中央の高さに寄せる。

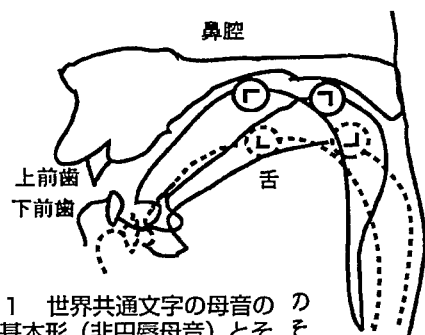


図1 世界共通文字の母音の基本的な母音の字とその発音の仕方

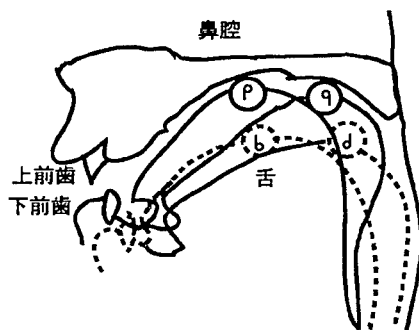


図2 母音の基本形（非円唇母音）に対応する円唇母音の発音の仕方とその世界共通文字（横棒が円になっている）

国際音声記号の子音の主要部分を表3に示した。表で上の横の欄（両唇音・唇歯音・歯音・歯茎音・後部歯茎音・そり舌音・硬口蓋音・軟口蓋音・口蓋垂音・咽頭音・声門音）は発音に使う器官の種類を示す。また表の左縦の欄（破裂音・鼻音・ふるえ音・たたき音あるいははじき音・摩擦音・側面摩擦音・接近音・側面接近音）は発音の際の上下の器官の使い方を示す。表の中には国際音声記号が書かれていて同じ欄の左は無声音（清音：発音の際に喉が震えない子音）、右は有声音（濁音：発音の際に喉が震える子音）である。清音と濁音の文字は全く異なる形をしているが、日本人ならばすぐに気づくことは濁音の音声記号は清音の音声記号に濁点を打てば良く、全く異なる字形を覚える必要はないということである。例えば濁点を ' ' とすれば D は T' で表され、Z は S' で表されるので約半分の子音の音声記号の形は覚える必要がない。また音声記号の形と発音に使う器官の種類や発音の際の上下の器官の使い方には関連が無く、音声記号の形はアルファベット（ラテン文字）を元にして全くでたらめに決められているように思える。事実、音声学

や言語学の専門の学者でさえ表を見ないとしばしば音声記号を間違え、また音声学といえはややこしい記号が出てくることで有名である。難しい音声記号の形を覚え、さらにその音声記号がどんな風に発音されるのかも別途覚えなければならない。このためもあって音声記号は最近では中学・高校では習わなくなっている。表の上の横の欄（発音に使う器官の種類）によって異なる発音に使う器官の断面をかたどった基本構造と発音の際の上下の器官の使い方（表の左縦の欄）によって決まった附属構造を合体させることにより新しい音声記号を作れば、音声記号の形を見れば発音に使う器官の種類や上下の器官の使い方が一目瞭然にわかるようになる事に気づき、この考えに基づいて決めたのが子音の音声記号の基本構造と附属構造である（19世紀に Alexander Melville Bell が開発した文字 Visible Speech<sup>(8)</sup> はこの考え方に近いが、当時は音声学が未発達であったので限界があったようだ）。附属構造で「上下の器官が接近している・狭い・一時的に触る・さわり続ける」は水平線を「つけない・一番下につける・真ん中につける・一番上につける」と区別し

表3 国際音声記号の子音（肺気流）：

[国際音声記号ガイドブック、国際音声学会（竹林・神山訳）、大修館書店、2003年] より許可を得て掲載

	両唇音	唇歯音	歯音	歯茎音	後部 歯茎音	そり舌音	硬口蓋音	軟口蓋音	口蓋垂音	咽頭音	声門音
破裂音	p b		t d			ʈ ɖ	c ɟ	k ɡ	q ɢ		ʔ
鼻音	m	ɱ	n			ɳ	ɲ	ɳ	ɴ		
ふるえ音	ʙ		ɾ						ʀ		
たたき音ある いははじき音			ɽ			ɽ					
摩擦音	ɸ β	f v	θ ð	s z	ʃ ʒ	ʂ ʐ	ç ʝ	x ɣ	χ ʁ	ħ ʕ	h ɦ
側面摩擦音			ɸ ɸ̥								
接近音		ʋ	ɹ			ɻ	j	ɰ			
側面接近音			ɻ			ɻ	ɻ	ɻ			

た。この考えはその後算盤数字の開発（足し算九九・掛け算九九を覚えなくとも数字の形を用いて加減乗除が短期間で出来るようになる合理的な数字の開発（9-13））の際にはほぼそのまま役だった。世界共通文字の子音は基本構造と付属構造を合体させてできる。どの器官を使うかによって文字の基本構造がきまり（図3、表4、図4-1,4-2）、上下の器官の動かし方によって子音文字の付属構造がきまる（図4-3）。表5-1、5-2、5-3、5-4に子音の国際音声記号と世界共通文字の比較を示した。また表6に仮名と世界共通文字の比較を示し、表7にハングルと世界共通文字の比較を示した。世界共通文字によるいろいろな言語と文字の例文の表記も示した。

#### 「謝辞」

1970年頃韓国からの留学生李弘林氏（現在延世大学教授）は私にはじめて韓国語とハングルを教えてくださいました。当時私は韓国語と日本語のあまりの類似性とハングルの合理性に驚き、感動しました。1990年に国際識字年が始まってまもなく、合理的な文字が識字の鍵を握ると直感し、ハングルの改良とハングルの表現できる発音の拡大に取り組みました。また1994年頃城生佰太郎先生（現在筑波大学教授）はそれまで独習であった私に音声学をより詳細に教えてくださいました。有り難う僕の古き良き友達達。感

謝します。

#### 「あとがき」

世界共通文字の原稿を国際音声学会誌に投稿したが、最終頁の手紙に示すように「この論文原稿は良くできていていろいろ考えたが、国際音声記号にも長い歴史があり、それなりに合理的である。従来の国際音声記号を全く変えてしまう可能性のある論文は拒否する」との理由で掲載を拒絶された。他の雑誌へも投稿したが国際音声学会への投稿が望ましいとの理由で拒絶された。また日本音声学会では口頭発表すら認められなかった。ここに最新版の論文を投稿する。

#### （文献）

- (1) ハングルの世界、金岡基、中公新書 742、中央公論社、1995年、東京。
- (2) 国際音声記号ガイドブック、国際音声学会（竹林・神山訳）、大修館書店、2003年、東京。
- (3) 早川吉則、「国際音声記号の改良による世界共通文字の開発」 日本音響学会 1992年3月講演論文集 - 音声B - 289-290頁。
- (4) 早川吉則、語学を趣味として = 国際語エスペラント・国際識字文字・国際識字数字 =、筑波フォーラム、36巻、1993年13 - 17頁、筑波大学。
- (5) Yoshinori Hayakawa, Universal Alphabet for Literacy Against AIDS and Population Crisis, Abstract of the 12th World Congress of Sexology, pp.54, Yokohama, August 12-16, 1995.
- (6) 早川吉則、世界共通文字の開発、日中学術シ

【子音は上下の器官を狭めて発音される】

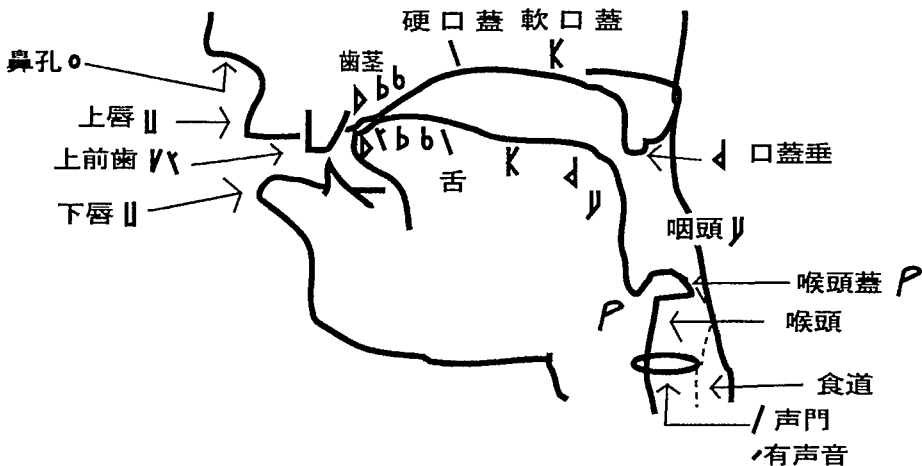


図3 口の構造と世界共通文字の子音の基本構造

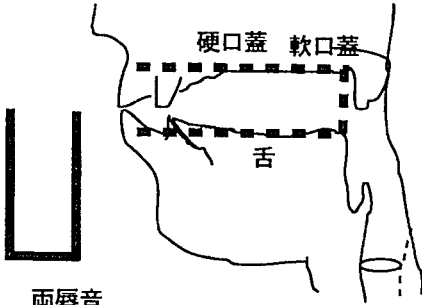
- ンボジウム—21世紀の科学と技術、東京大学学士会館 1999年9月3日－4日
- (7) Yoshinori Hayakawa, Universal Alfabeto por Internacia Alfabetigo. La 3a Azia Kongreso de Esperanto, Seoulo (Koreio), Augusto 23-26, 2002.
- (8) A is for American, Jill Lepore, Vintage2003, Vintage ISBN:0-375-70408-6
- (9) Yoshinori Hayakawa, Abacus Numerals for Literacy Against AIDS and Population Crisis, Abstract of the 12th World Congress of Sexology, pp.53, Yokohama, August 12-16, 1995.
- (10) 早川吉則, 算盤数字の開発－短期間で計算能力のつく合理的な数字－、日本数学教育学76回総会、皇学館高等学校、伊勢、1994年8月4日
- (11) Yoshinori Hayakawa, Abacus Numerals for Higher Efficiency of Mathematics Learning, The 3rd East Asia Regional Conference on Mathematics Education (TSG2) ICMI-EARCOME 3, Shanghai, China, August 8-12, 2005,
- (12) 早川吉則, 算盤数字による2桁数の加減乗除、筑波数学教育研究会、筑波大学学校教育部(東京・大塚)、2003年8月22日。
- (13) Yoshinori Hayakawa, Abacus Numerals for Rapid and Sufficient Mathematics Learning for Enhancing Creativity. Journal of the Korea Society of Mathematical Education, Series D: 9 (3) 243-256 (2005). インターネットでもみれらる <http://www.mathnet.or.kr/PDF/16yhayakawa.pdf>
- (14) 飢餓の世紀、R.W. ブラウン、H. ケイン (小島訳)、ダイヤモンド社、1995年。
- (15) エコ・エコノミー、R.W. ブラウン (福岡・北濃訳)、家の光協会、2002年
- (16) 人間にとってエイズとは何か、広瀬弘忠、日本放送出版協会、1994年。
- (17) Education and HIV/AIDS: A Window of Hope. World Bank, April 2002 by World Bank.

表4 世界共通文字の子音文字の基本構造

子音の名前	発音に用いる器官	基本形	基本構造が図案化する器官の断面
両唇音	上下の唇	Ɑ	上を向いて開いた口
唇歯音	下唇と上の前歯	Ɱ	上の前歯の断面
歯音	舌と上の前歯	ɹ	舌(長い直線)と上の前歯
歯茎音	舌の先と上の前歯の付け根	ɸ	口蓋(直線)とくの字形の舌
後部歯茎音	舌の先と上の前歯の後方	ɸ	口蓋(直線)と半円形の舌
そり舌音	口蓋とそらせた舌	ɸ	口蓋(直線)と円形の舌
硬口蓋音	舌と硬い口蓋	ɹ	直線状の舌
軟口蓋音	舌の中ほどと軟い口蓋	ɸ	口蓋(直線)と反くの字形の舌
口蓋垂音	舌の奥と喉ちんこ	ɹ	口蓋(直線)と口蓋垂(三角)
咽喉音	舌の奥と咽喉	ɹ	口と口の奥の咽喉
喉頭蓋音	喉頭と喉頭蓋	ɸ	喉頭(斜線)と喉頭蓋("つ"の形)
声門音	声門で発音	/	気管(斜めの直線)
両唇硬口蓋音	Ɑ = Ɑ + ɹ		
歯茎硬口蓋音	ɸ = ɹ + ɸ		
両唇軟口蓋音	ɸ = Ɑ + ɸ		
後部歯茎・軟口蓋音	ɸ = ɸ + ɸ		

【世界共通文字の子音の基本構造 1】

世界共通文字の子音は基本構造と付属構造を合体させてできる。  
 子音の基本構造は使う器官の形を表す（図中破線で示した）。  
 上下の器官の動かし方などによって子音文字の付属構造がきまる。



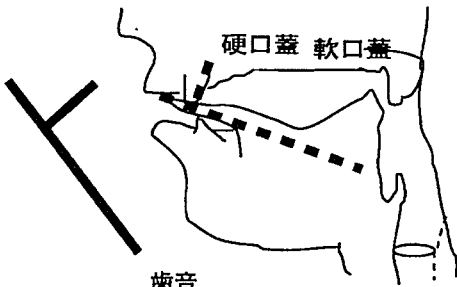
両唇音

上下の唇を使う。  
 舌の形は誇張してある。



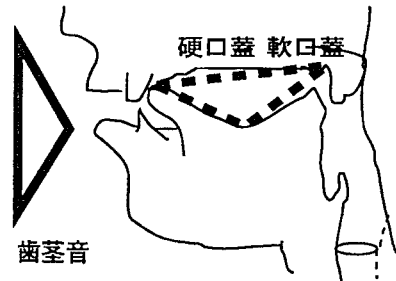
唇歯音

唇と上の前歯を使う



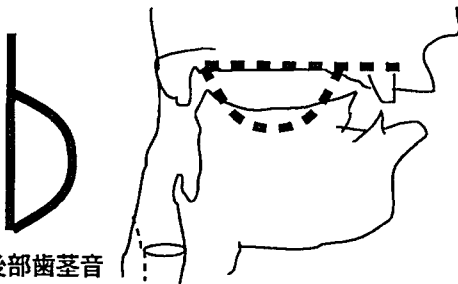
歯音

舌と上の前歯を使う。  
 舌の形は誇張してある。



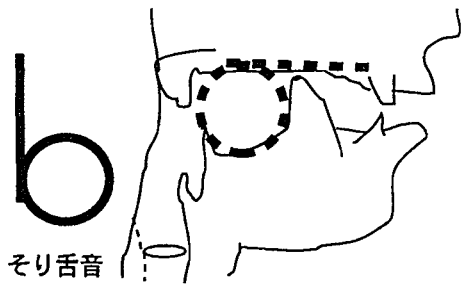
歯茎音

舌の先と上の前歯の付け根を使う



後部歯茎音

舌の先と上の前歯の後方を使う。  
 舌の形は誇張してある。



そり舌音

口蓋とそらせた舌を使う。  
 舌の形は誇張してある。

図 4-1 世界共通文字の子音の基本構造 1

破線の形を基本構造とする。

【世界共通文字の子音の基本構造 2】

世界共通文字の子音は基本構造と付属構造を合体させてできる。

子音の基本構造は使う器官の形を表す（図中破線で示した）。

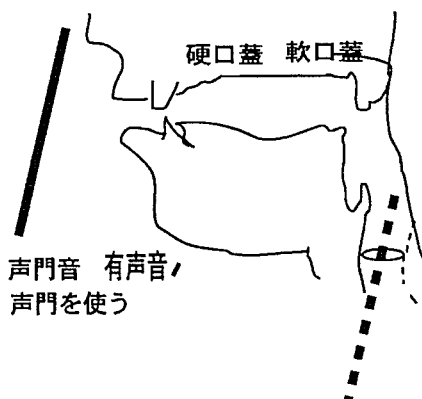
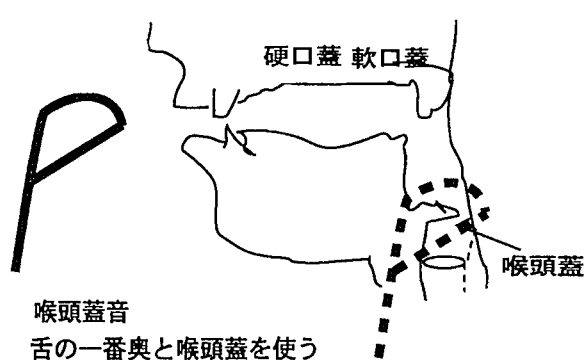
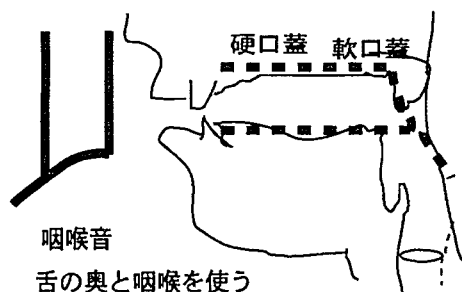
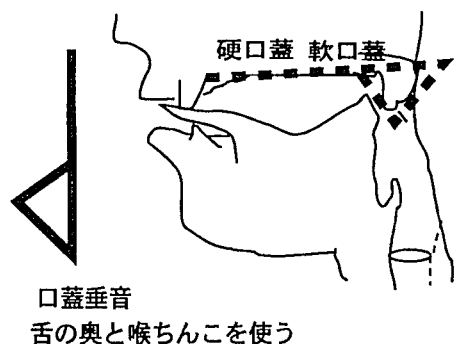
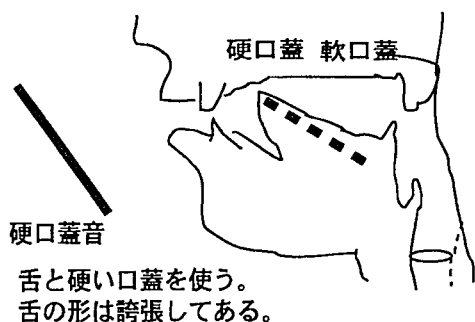


図 4-2 世界共通文字の子音の基本構造 2  
破線の形を基本構造とする。

## 【世界共通文字の子音の付属構造】




世界共通文字の子音は基本構造と付属構造を合体させてできる。



子音の基本構造は発声に使う器官の断面図を表す。



上下の器官の動かし方などによって子音文字の付属構造がきまる。



上下の器官の動かし方などによって子音文字の付属構造がきまる。



肺からの気流で発声する。上下の器官の接触度によって水平線をつける高さを変える（この着想によって世界共通文字の形が大幅に合理化され、さらには算盤数字の発明につながった）。



上下の器官が近い（基本構造のまま）  声帯が震えない：無声音   
 声帯が震える：有声音(濁音) 



上下の器官が狭い（基本構造の一番下に水平線をつける）  有声音(濁音) 



上下の器官が一瞬さわって遠く離れる（基本構造の中央に水平線をつける）  有声音(濁音) 


上下の器官が一瞬さわって離れるがその後狭い（基本構造の一番下と中央に水平線をつける）  

上下の器官の中央が触り続け、側面が近い（基本構造の一番上に水平線をつける）  

上下の器官の中央が触り続け、側面が狭い（基本構造の一番上と一番下に水平線をつける）  


上下の器官の中央が触り続け、側面も一瞬触って遠く離れる  
 （基本構造の一番上と中央に水平線をつける）  

上下の器官の中央が触り続け、側面も一瞬触って離れるが狭い  
 （基本構造の一番上・中央・一番下に水平線をつける）  


はじき音  

ふるえ音  


鼻から息を出す   ○ は鼻の孔の形を示す。

硬口蓋音化(きゃ・きゅ・きよ、ぴゃ・ぴゅ・ぴよ、にゃ・にゅ・によなどの小さいゃ行) 

肺以外の気流で発声する

放出音  空気が出る (+)。

吸着音 

側面吸着音  上下の器官の中央が持続的にくっつきながら吸着音をだす。

入破音  空気が入る (-)。

無気（気流をださない）


一部の促音  空気がでない（基本構造の下に0をつける）。

図 4-3 世界共通文字の子音の付属構造



表 5-1 子音の国際音声記号（左の丸みの有る文字）と世界共通文字（右の角張った文字）の比較 1

子音（その1）			両唇音	唇歯音	歯音	歯茎音	後部 歯茎音	そり舌音
世界共通文字の基本構造			ll	v	ʎ	ɸ	b	ɸ
肺 か ら の 気 流 に よ る 発 音	上下の器官が近い	無声音 有声音	ll ll'	v v'	ʎ ʎ'	ɸ ɸ'	b b'	ɸ ɸ'
	上下の器官が狭い	無声音 有声音	Φ ll β ll'	ʌ ʌ'	ʎ ʎ'	s ɸ z ɸ'	ʃ b ʒ b'	s ɸ z ɸ'
	上下の器官が一瞬 さわって遠く離れる	無声音 有声音	p ɸ b ɸ'	ɸ ɸ'	θ ʎ ð ʎ'	t ɸ d ɸ'	b b'	t ɸ d ɸ'
	上下の器官が一瞬 さわって離れるが その後狭い	無声音 有声音	p(Φ) ɸ b(β) ɸ'	ɸ ɸ'	ʎ ʎ'	ts ɸ dz ɸ'	tʃ b dʒ b'	ts ɸ dz ɸ'
	上下の器官の中央 が触り続け、側面 が近い	無声音 有声音	f f'	f f'	ʎ ʎ'	ɸ ɸ'	b b'	ɸ ɸ'
	上下の器官の中央が 触り続け、側面が狭 い	無声音 有声音	ɸ ɸ'	ɸ ɸ'	ʎ ʎ'	ɸ ɸ'	b b'	ɸ ɸ'
	上下の器官の中央が 触り続け、側面も一 瞬触って遠く離れる	無声音 有声音	ɸ ɸ'	ɸ ɸ'	ʎ ʎ'	ɸ ɸ'	b b'	ɸ ɸ'
	上下の器官の中央が触 り続け、側面も一瞬触 って離れるが狭い	無声音 有声音	ɸ ɸ'	ɸ ɸ'	ʎ ʎ'	ɸ ɸ'	b b'	ɸ ɸ'
	はじき音	有声音				ɸ ɸ'	b b'	ɸ ɸ'
	ふるえ音	有声音	B ɸ'			ɸ ɸ'	b b'	ɸ ɸ'
肺 以 外 の 気 流	鼻から息を出す	無声音 有声音	ɸ <sup>o</sup> ɸ <sup>o</sup> '	ɸ <sup>o</sup> ɸ <sup>o</sup> '	ʎ <sup>o</sup> ʎ <sup>o</sup> '	ɸ <sup>o</sup> ɸ <sup>o</sup> '	ɸ <sup>o</sup> ɸ <sup>o</sup> '	ɸ <sup>o</sup> ɸ <sup>o</sup> '
	放出音	無声音	p' ll <sup>+</sup>	v <sup>+</sup>	ʎ <sup>+</sup>	t' ɸ <sup>+</sup>	b <sup>+</sup>	t' b <sup>+</sup>
	吸着音	無声音	ɸ ll <sup>&gt;</sup>	v <sup>&gt;</sup>	ʎ <sup>&gt;</sup>	ɸ ɸ <sup>&gt;</sup>	b <sup>&gt;</sup>	ɸ b <sup>&gt;</sup>
	側面吸着音	無声音	ɸ ll <sup>&gt;</sup>	v <sup>&gt;</sup>	ʎ <sup>&gt;</sup>	ɸ ɸ <sup>&gt;</sup>	b <sup>&gt;</sup>	ɸ b <sup>&gt;</sup>
	入破音	無声音 有声音	β ll <sup>-</sup> β ll <sup>-</sup> '	v <sup>-</sup> v <sup>-</sup> '	ʎ <sup>-</sup> ʎ <sup>-</sup> '	ɸ ɸ <sup>-</sup> ɸ ɸ <sup>-</sup> '	b <sup>-</sup> b <sup>-</sup> '	ɸ b <sup>-</sup> ɸ b <sup>-</sup> '
無 気	一部の促音		!!			ɸ <sup>o</sup>	b <sup>o</sup>	ɸ <sup>o</sup>

表 5-2 子音の国際音声記号（左の丸みの有る文字）と世界共通文字（右の角張った文字）の比較 2

子音（その2）			硬口蓋音	両唇硬口蓋音	歯茎硬口蓋音	軟口蓋音	両唇軟口蓋音	b と k を同時に
世界共通文字の基本構造			ʌ	ʙ	ɗ	ɟ	ʙ	ɓ
肺からの気流による発音	上下の器官が近い	無声音 有声音	j ʲ	ɸ ʙ		ɰ ɟ	w ʙ	
	上下の器官が狭い	無声音 有声音	ç ʝ j ʝ	ʙ ʙ ʙ ʙ	ɸ ɗ ɹ ɗ	x ɟ ɣ ɟ	ɸ ʙ ɸ ʙ	ɸ ɓ
	上下の器官が一瞬さわって遠く離れる	無声音 有声音	c ɸ ɸ ɸ	ɸ ʙ ɸ ʙ		k ɟ g ɟ	ɸ ʙ ɸ ʙ	
	上下の器官が一瞬さわって離れるがその後狭い	無声音 有声音	(ç) ɸ (j) ɸ	ɸ ʙ ɸ ʙ		(k) ɟ (g) ɟ	ɸ ʙ ɸ ʙ	
	上下の器官の中央が触り続け、側面が近い	無声音 有声音	ɹ ɹ	ʙ ʙ		ɰ ɟ	ʙ ʙ	
	上下の器官の中央が触り続け、側面が狭い	無声音 有声音	ɸ ɸ ɸ ɸ					
	上下の器官の中央が触り続け、側面も一瞬触って遠く離れる	無声音 有声音	ɸ ɸ ɸ ɸ					
	上下の器官の中央が触り続け、側面も一瞬触って離れるが狭い	無声音 有声音	ɸ ɸ ɸ ɸ					
	はじき音	有声音	ɸ ɸ					
	ふるえ音	有声音	ɸ ɸ					
肺以外の気流	鼻から息を出す	無声音 有声音	ɲ ɲ ɲ ɲ			ɲ ɲ ɲ ɲ		
	放出音	無声音	c ɸ			k ɟ		
	吸着音	無声音	ɸ ɸ					
	側面吸着音	無声音	ɸ ɸ					
	入破音	無声音 有声音	c ɸ ɸ ɸ			k ɟ g ɟ		
無気	一部の促音		ɰ			ɰ		

表 5-3 子音の国際音声記号（左の丸みの有る文字）と世界共通文字（右の角張った文字）の比較 3

子音（その 3）			口蓋垂音	咽喉音	喉頭蓋音	声門音
世界共通文字の基本構造			↓	ʏ	ɸ	ʌ
肺からの気流による発音	上下の器官が近い	無声音 有声音	↓ ↓'	ʏ ʏ'	ɸ ɸ'	ʌ ʌ'
	上下の器官が狭い	無声音 有声音	χ ↓ ɣ ↓'	ħ ʏ ɦ ʏ'	ħ ɸ ɦ ɸ'	ħ ʌ ɦ ʌ'
	上下の器官が一瞬さわって遠く離れる	無声音 有声音	q ↓ g ↓'	ɬ ɮ	ɸ ɸ'	ʔ
	上下の器官が一瞬さわって離れるがその後狭い	無声音 有声音	ɟ ɟ'	ɟ ɟ'		
	上下の器官の中央が触り続け、側面が近い	無声音 有声音	ɖ ɖ'	ɖ ɖ'		
	上下の器官の中央が触り続け、側面が狭い	無声音 有声音				
	上下の器官の中央が触り続け、側面も一瞬触って遠く離れる	無声音 有声音				
	上下の器官の中央が触り続け、側面も一瞬触って離れるが狭い	無声音 有声音				
	はじき音	有声音				
	ふるえ音	有声音	ʀ ↓'			
肺以外の気流	鼻から息を出す	無声音 有声音	ɴ ɴ'			
	放出音	無声音	q' ↓'			
	吸着音	無声音				
	側面吸着音	無声音				
無気	入破音	無声音 有声音	ɗ ↓ ɓ ↓'			
	一部の促音		ɰ			



表6 平仮名・ローマ字・世界共通文字の比較 2003年8月30日 早川吉則

[illegible]

表7 ハングル・国際音声字母(1989年)・世界共通文字の比較

表7 (A) 母音

ハングル	ㅏ	ㅑ	ㅓ	ㅕ	ㅗ	ㅛ	ㅜ	ㅠ	ㅡ	ㅣ
国際音声記号	a	j a	ə	j ə	o	j o	u	j u	ɯ	i
世界共通文字	ㅏ	ㅑ	ㅓ	ㅕ	ㅗ	ㅛ	ㅜ	ㅠ	ㅡ	ㅣ

表7 (B) 複合母音

ハングル	ㅏㅓ = ㅝ	ㅓㅓ = ㅞ	ㅗㅓ = ㅜ	ㅗㅓㅓ = ㅟ
国際音声記号	æ	e	wa	wæ
世界共通文字	ㅝ	ㅞ	ㅜ	ㅟ

ハングル	ㅗㅓㅓ = ㅠ	ㅜㅓㅓ = ㅡ	ㅜㅓㅓ = ㅢ	ㅡㅓㅓ = ㅣ
国際音声記号	œ	wə	wi	wi
世界共通文字	ㅠ	ㅡ	ㅢ	ㅣ

表7 (C) 子音

ハングル	ㄱ	ㄴ	ㄷ	ㄹ	ㅁ	ㅂ
国際音声記号	g, k	n	d, t	l, ɭ	m	b, p
世界共通文字	ㄱ	ㄴ	ㄷ	ㄹ	ㅁ	ㅂ

ハングル	ㅅ	ㅇ	ㅈ	ㅊ	ㅋ	ㅌ
国際音声記号	s	ŋ	ʈʂ, tʃ	tʃʰ	kʰ	tʰ
世界共通文字	ㅅ	ㅇ	ㅈ	ㅊ	ㅋ	ㅌ

ハングル	ㅍ	ㅎ	ㅊ
国際音声記号	pʰ	h	tʰ
世界共通文字	ㅍ	ㅎ	ㅊ

### 世界共通文字 (UAL) による表記の例文

- 1 The other day, he asked me, "Have you read this book?". (英語: ラテン文字)  
UAL: x' r =x' + b' t r, L r - l b k b u' r -, "L l p' \ q - b' b b' x' r b u' g k ?".
  
- 2 지금부터 우리말 방송을 시작하겠습니다 (Korean: Korean Alphabet)  
UAL: b r k' i u' m b' g b + g b' u' l b' h l k' d k' k' i b' b' r b' l k L l k' i b' i u' m b' r b' l .
  
- 3 Sinjoro, mi volas traduki ĉi tiun artikolon al Esperanto. (エスペラント:ラテン文字)  
UAL: b' r' g' a' v' b' u' m' r' p' a' v' l b' b' b' l b' g' - k' r b' r b' i u' m l b' k' a' v' b' o' u' b' h b' b' l b' o' .
  
- 4 今日は 良い 天気で あった。(日本語: 漢字と仮名)  
UAL: k, a' v' k' l \ q r b' i k' k' r b' i l b' l .
  
- 5 Ich glaube da ß Esperanto die einfachste Fremdsprache für uns ist.  
(ドイツ語: ラテン文字)  
UAL: r i - k' b' l g b' i b' l b' i b' i k' l - b' o' b' i b' r - l r b' l i - b' i b' i v' a' i u' m b' b' i k' l - j i v' r - j' g b' b' r b' .
  
- 6 Товарищ Иванички, я знаю, где он живёт. (ロシア語: キリル文字)  
UAL: b' i v' l - b' r b b' r' l b' r b' k r -, \ l b' b' l - i q - k' k' i - g b' b' r' v' a' v' .
  
- 7 中国国際广播电台！(中国語: 漢字)  
UAL: ~ b' k' - k' q d - k' q d - b' r - y' k' g l k' g b' i b' i b' r b' - b' l r .
  
- 8 Radio France International! L'actualite en France! (フランス語: ラテン文字)  
UAL: j' l b' r d v' j' l - b' b' e' o' b' i b' j' b' l b' g b' l - b' i b' , l k b' g l b' r b' i  
j' o' b' v' j' l - b' b' .
  
- 9 ধন্যবাদ । (ベンガル語: ベンガル文字)
- UAL: b' g b' - g b' l - b' .
- 10 नमस्कार । (ヒンディー語: デーヴァナーガリー文字)
- UAL: b' i u' b' k l b' .
  
- 11 ขอบคุณครับ (タイ語: タイ文字)
- UAL: k' g u' k' g - k' k' b' l u' .
  
- 12 مِنْ فَضْلِكَ (アラビア語: アラビア文字)
- UAL: u' r b' l r b' r k l .
  
- 13 מלוא (ヘブライ語: ヘブライ文字)
- UAL: b' l b' - u' .
  
- 14 தன்தி. UAL: b' l b' r . (タミール語: タミール文字)
  
- 15 σ τ ο κ α λ ο ! UAL: b' b' k l b' ! (ギリシャ語: ギリシャ文字)
  
- 16 မင်္ဂလာပါ။ UAL: u' r b' k' l b' l - b' l - ! (ビルマ語: ビルマ文字)

# Journal of the International Phonetic Association

Editor: Ian Maddieson

Phonetics Laboratory  
Department of Linguistics  
UCLA, 405 Hilgard Avenue  
Los Angeles, CA 90024-1543, U.S.A.

Telephone: (310) 206-9877  
E-mail: IDUØIAN@UCLAMVS.bitnet

September 19 1992

Dr. Yoshinori Hayakawa  
Institute of Basic Medical Sciences  
University of Tsukuba  
1-1-1 Tennodai, Tsukuba-shi  
Ibaraki-ken 305  
JAPAN

Dear Dr Hayakawa,

I have recently received the latest version of the paper that you have written on your "Proposal of a Universal Literacy Alphabet", together with the letter that you wrote on September 8th this year. I do not have any record of receiving a version of the paper sent in March or May, so you may be right about that version not reaching me.

I am afraid that my decision about publication of this article in *Journal of the International Phonetic Association* remains the same. You may recall what I wrote to you in December 1991 — I quote from that letter:

"I have spent quite a lot of time pondering whether the paper is really suitable for publication in *Journal of the International Phonetic Association*. After a lot of thought I have decided that it is not. One of the basic purposes of the International Phonetic Association is to promote standardization in the symbols used in phonetic transcription in research, teaching, medical case reports and so on. The chosen medium for doing this is the Association's alphabet. It may not be the logically best designed, but it has been in use with comparatively small modifications for a lengthy period and this continuity is one of its important advantages. We certainly publish articles in *JIPA* that deal with issues in the theory and practise of transcription, but they are oriented to the application or modification of the Association's alphabet. One way of interpreting your article is as a proposal to replace the IPA as a whole. I feel that it would be inappropriate to publish such a proposal in *JIPA*."

This paragraph still reflects my thinking.

I am happy to learn that you had the opportunity to present your proposals before the Japanese Phonetic Association. Perhaps their own Journal would be interested in your paper?

Yours sincerely,



Ian Maddieson